暴かれた真実・業界黙示録

「暴かれた真実・業界黙示録」は、実際に起こったパチンコ・スロット業界の事件・詐欺・摘発などをもとに構成された実録風ドキュメント連載である。登場人物や店名は仮名化されているが、事件の内容は極力事実に基づき構成されている。閉ざされたホールの奥で何が起こっていたのか――いま、その真実が暴かれる。

File.01 実録・池袋攻略法詐欺事件 ―封筒の中の絶望―

パチスロ雑誌の巻末に載るモノクロ広告。そこにはいつも、〝勝てない者〟たちの心をくすぐるような文言が並んでいた。

「1G連解禁」「裏モノ対応打法」「勝てるのは〝知っている者〟だけ」。

そのひとつひとつが嘘か本当かも分からないまま、誰かの「一縷の希望」として封筒に姿を変えて、全国のポストへと届いていった。

森田誠一（仮名）――35歳。かつて都内を中心に活動していたスロ専の打ち手で、イベント全盛期の頃は一日中ホールで台と向き合う生活を続けていた。

立ち回りには自信があり、ノーマルタイプで設定を読み切り、軍団の一角として雑誌に写真が載ったこともあった。

だが、イベント規制・設定状況の悪化・AT機の主力化……流れが変わったのは一瞬だった。

かつての仲間たちは引退し、軍団も解散。森田は打ち手としての道を閉ざされた。

派遣の倉庫作業員として生活をつなぎながら、寂れたアパートで細々と暮らす日々。冷蔵庫には水と安い食パンだけ。

それでも月に一度、古本屋で買ってくるスロット雑誌だけが、過去とつながる細い糸だった。

ある日、彼の目に飛び込んできたのは、「有限会社エクスバルト 情報事業部」と名乗る会社の広告だった。

「全国対応・1G目でボーナス確定」
「裏基板対応！業界関係者のみに公開された内部資料を限定頒布」
「完全マニュアル＋実戦動画DVD。返金保証制度あり」

価格は3万5千円。決して安くはないが、森田の財布の中にはちょうどその金額があった。

なによりも、「もう一度だけ、あの興奮を」という気持ちが彼の判断を後押しした。

森田には、忘れられない一日がある。

2000年の秋、蒲田のホールで『大花火』を打ち、午後2時の時点で差枚＋6000枚。その日、閉店まで打ち切り、合計13000枚を流した。

店長がこちらを何度も見に来て、客の間でひそひそと「軍団の人間だろ」と噂された。

打ち終えた後、缶コーヒーを片手に見上げた空は異様に澄んでいた――あれが人生最後の「満足した勝利」だった。

それから数年。似たような手応えは、一度も戻ってこなかった。

届いた封筒は意外にも丁寧な包装だった。クラフト紙にロゴが印刷され、封緘はしっかりとされていた。

中にはB5コピー用紙で印刷された〝完全マニュアル〟と、銀色の無地DVD-R。手順はこう書かれていた。

- リーチ目A出現後、3G以内に中押し青7狙い
- スイカ成立時は1G空回し後、逆押し赤7狙い
- REG後は冷却区間10Gを避けること

※この方法は裏基板搭載機にのみ対応しています

動画には、どこか地方の古びたホールで1G連が連発している様子が映っていた。画質は粗いが、妙にリアリティがある。

「実際にあるのかもしれない」と、そう思わせるには十分だった。

池袋東口の「パーラーサンライト池袋東口店」（仮名）。

森田は攻略法を携え、開店直後に足を運んだ。履歴が荒れた『ハナハナ30』の台に座り、手順通りに打ち出す。

何も起きない。3万、5万とメダルが吸い込まれていく。

ようやくREGを1回引いたが、マニュアルで謳われていた〝連チャン〟は起きなかった。

目の前のリールはただ静かに回り続け、現実だけがひりひりと積み上がっていった。

財布を閉じて店を出る頃には、身体の芯まで冷えきっていた。

その夜、森田は掲示板にこう書き込んだ。

「エクスバルトの攻略法、完全に詐欺。共有しませんか？」

即座に反応があった。

「俺もやられた」「あのDVD、編集してるっぽくない？」「何年か前にも似た内容のがあったぞ」

その中で、明らかにひと味違う返信をしてきたのが「坂井」と名乗る人物だった。

坂井は元ITエンジニア。スロットが趣味で、数年前までは設定狙いもしていたという。

彼は、過去に同様の手口に引っかかり、そこから独自に情報収集を始めた。

すでに10人以上の被害者から封筒・マニュアル・振込記録を提供してもらい、詳細なデータベースを構築していた。

「これは単発の詐欺じゃない。〝攻略法販売〟を装った反復型の業者詐欺です」

「同じ内容を使いまわし、社名と住所を変えて広告を打ち続けてる」

森田は、その資料の一部を見せてもらい、愕然とした。

「パルスジャパン」「KSGインフォ」「ライズクリエイト」――どれも過去に掲載されていた社名だったが、使用していた動画と手順がほぼ一致していたのだ。

2004年1月。坂井と数名の被害者が、豊島区の警察署に被害届を提出した。

最初は冷淡な対応だったが、提出された資料はA4で20ページを超え、広告の構成・被害者の証言・銀行口座の名義照会まで含まれていた。

数週間後、警察は動いた。

渋谷区のレンタルオフィスで、「有限会社エクスバルト」の名義で借りられていた部屋に家宅捜索が入る。

そこには、印刷前のマニュアル原稿、白紙のDVD-R、購入者リストが保管されていた。

主犯は、佐久間（仮名）。かつてパチンコ雑誌の副編集長を務め、裏モノや基板企画の執筆に関わっていた人物だった。

情報誌の凋落とともに業界を離れ、独立して広告代理業を名乗りながら、裏で詐欺的手法を展開していたという。

「攻略法なんてない。でも、あるように見せる文章は書ける」

「だって、俺は〝騙されたい人間〟を知ってるんだよ」

そう供述したとされる彼の言葉は、いっそ真理にすら聞こえた。

だが、法の壁は高かった。

詐欺罪としての立件は見送り。適用されたのは特定商取引法違反のみ。

佐久間には罰金と一部業務停止命令が下されたが、返金は行われなかった。

出版社側は、「広告内容には関与しておらず、責任は取れない」と発表した。

森田のもとに届いたのは、「捜査結果通知書」一通。封筒を開ける手が震えたが、その中には薄い紙切れだけが入っていた。

彼が期待していた〝けじめ〟も、〝救い〟もなかった。

それから数ヶ月。掲示板にまた、見覚えのある文体の広告が現れた。

「〝パルサー系〟完全対応・新タイミング打法、限定公開！」

差出人は「合同会社ユニオンエイト」。だが、文面も構成も、かつてとまったく同じだった。

森田は、スレッドに書き込んだ。

「攻略されたのは台じゃない。俺たちの〝勝てるという幻想〟だった」

〝いいね〟が一つ、ついた。

それが誰だったのかは、今もわからない。